

シャレード文庫 町工場にヒツジがいつびき  
サイズ140×100mm

町工場にヒツジがいつびき

今城けい☆イラスト 周防佑未

(くそ。……こいつの身体をさわりたいな)

真っ昼間に、しかもただ純粹によるこんでいるだけの相手に対して、むらむらしてくる自分は馬鹿だ。そんな自省はあるけれど、この青年に欲望をおぼえているのは事実だった。

(この前みたいなキスをして、そのうえあそこをいじつてやったらどうなるだろう?)

「……またも彼は他愛なく射精してしまうだろうか？」

真っ赤な顔で恥ずかしくて、そのくせ男にキスされると、敏感に反応する無垢な身体……。

「……智康さん？」

いつの間にかほどこいたネクタイを手に持ったまま、場に突っ立っていたらしい。怪訝な呼び声にハッとして、急いで自分の妄想を追い払う。

「ああ……その。ヤエも工場で働くんなら、作業服があるかなって考えてた」

「思いつきの台詞だったが、遥季は顔を輝かせた」

「僕も着ていいんですか!？」  
「もちろん。ただし、俺のしかここにはないから大きいかもしれないが」

それからふたりは互いに背中を向けた姿勢を済ませた。別に申し合わせたと言っわけではなく、なんとなくそうなったのだ。

スーツをハンガーにかけてから振り向くと、そこに苦心している遥季の姿が目に入る。

そうしてくれたら……あとは僕に  
どんなことをしてもいいです

CHARADE BUNKO 